

農林抄

ウナギ養殖が100%依存しているシラスウナギの漁獲量が近年大幅に減少し大きな問題になっている。ウナギ種苗の人工生産は可能になったが、シラスウナギに成長するまでの生残が極端に悪く、商業化には至っていない。その原因としてホルモン投与による「無理矢理」な催熟によって何らかのアンバランスが生じ、最終的には卵や精子の質に跳ね返ってくるのではないかと考えられる。天然ウナギ成魚の生息場所がわかれば飼育環境を真似ることができる。また、成熟している天然ウナギの遺伝子発現を調べることによって、ホルモン投与だけでは不足している要素を新たに与えることも可能となる。標本さえ入手できれば様々なことを知るための分析技術や

スタッフは揃っているのだが、いかんせん成熟した天然ウナギを世界の誰も見たことがないという大きな壁があった。そこで水産庁と水産総合研究センターは、産卵海域でウナギ成体の捕獲調査に乗り出した。海に降りてからウナギは餌を摂らないので、釣ることはできない。そこで、大型の中層トロール網(開口部が縦50m、幅60m)を用いた。

ウナギの産卵生態解明に向けて

域の水深は1200mから3000mと深いことから、ウナギは海

の斜面や海底に生息しているのではなく中層を遊泳しているものと考えられる。今回の調査は世界初となる成熟ウナギの発見という大きな成果をもたらしたが、中層トロールで捕獲できることが実証され、標本が今後とも入手できるという点で意義深い。生息環境調査も必要であるが、生きた状態で捕獲することができれば遺伝子発現を含む生理状況の詳細も知ることができ。現在、ウナギの種苗生産技術開発のための農水省プロジェクトが進行中であり、そのプロジェクトに参画している各分野の専門家に捕獲したウナギの組織標本の分析を依頼している。さらなる標本を提供することによって集積される天然ウナギの生理学的情報は種苗生産技術の向上に大いに貢献するであろう。

週刊農林

(張成年・(独)水産総合研究センター中央水産研究所浅海生態系研究室長)

(十月十五日・第二〇三二号)

新たな食料安全保障の確立Ⅱ

もくじ

国際穀物需給予測と食料安全保障 世界の穀物需給と日本の食料安全保障(4)..... 4	ユニバックグレイン(株)代表取締役 茅野 信行
「食料の未来を開く戦略会議」提言と新たな食料安全保障 資料自給率は向上できるか(4)..... 6	東京大学大学院教授 鈴木 宣弘
08年度補正予算(緊急安心実現総合対策) 油・肥飼料高騰対策に1390億円..... 9	
年度農林水産予算主要施策の解説Ⅱ 持続可能な力強い水産業の確立.....10	

農水省版

経営・構造.....12	食品・安全.....16
米麦・水田.....12	環境・技術.....16
畜産.....13	林野.....17
畑作・果樹.....14	水産.....18
農協・経済.....15	